

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	航空法規(Aviation Regulation)		授業コード	C079301
担当教員名	林田 和隆		科目ナンバリングコード	
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	
必修・選択区分	航空宇宙設計コース 選択 航空機整備コース 選択 航空宇宙システムコース 選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	黒板に必要事項を列記するので必ず写すこと。又就職に航空整備士を希望する諸君は、2等航空整備士学科試験合格する事が、条件にされております。航空整備士国家試験4科目の中に航空法もあります。			
受講心得				
教科書	航空機検査業務 サーキュラー集(日本航空技術協会出版)航空法規集(鳳文書林出版)			
参考文献及び指定図書	航空法、サーキュラー、耐空性審査要領、等			
関連科目				

授業の目的	航空機を運航又は航空機設計していく為に必要な法律を学習します。
授業の概要	航空機の設計、運航及び整備を実施する上で必要な航空法を学習する分野です。内容は、航空法の歴史、背景、航空法の体系として航空法施行規則、耐空性審査要領、航空機に備え付けられない書類、耐空性基準、耐空性審査要領、飛行規程、運用限界、修理改造検査、型式証明、非常用装備品、航空整備士の作業区分予備品証明等、について学習します。又日本の航空法と諸外国特にアメリカの航空法の相違についても学習します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：航空法の体系</b>  日本の法律体系、航空法体系を理解する。	板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第2週：航空法の目的</b>  航空法の目的、第2条航空機の定義、航空業務について述べます。	板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第3週：航空従事者</b>  航空従事者の役目、航空保安施設について述べます。	板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第4週：計器飛行</b>  計器飛行についての定義について説明します。	板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第5週：航空使用事業</b>  航空運送事業と航空機使用授業について説明します。	板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第6週：航空機登録</b>	板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習

航空機の登録の仕方、登録に必要な書類等について説明します。		復習
<b>第7週：航空機に必要な書類</b> 航空機の運用限界、対空証明、型式証明等について説明します。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第8週：航空機に必要な書類</b> 航空機の運用限界、対空証明、型式証明、飛行規程等について説明します。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第9週：救命用具</b> 航空機に積載しなければならない救急用具及び点検期間について説明します。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第10週：運航管理者</b> 運航管理者の業務範囲、資格等について述べます。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第11週：その他の法律</b> 航空機を運航するに当たりその他必要な法令、電波法、高圧取締法、危険物等が何故必要か述べます。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第12週：その他の法律</b> 航空機を運航するに当たりその他必要な法令、電波法、高圧取締法、危険物等が何故必要か述べます。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第13週：航空機品質</b> 航空機の品質の概要を述べます。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第14週：品質分析法</b> 品質を分析する手法の種類、やり方の概要を説明します。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第15週：品質分析法</b> 品質を分析する手法の種類、やり方の概要を説明します。		板書記入の問題について 予習・板書内容についての 復習
<b>第16週：期末試験</b>		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目		
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	航空機設計、航空機整備に何故航空法が必要か理解する。
<b>【知識・理解】</b>	航空機1機を飛ばすのに必要な書類、資格等について理解する。

【技能・表現・コミュニケーション】	自分の相手が誰なのか理解し、相手を安心させるには何が必要か理解する。
【思考・判断・創造】	航空機は法律のもとに飛んでいることを理解する。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	80点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	20点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	